

S R Mの除去（3）



洗浄後、枝肉にせき髄片が付着していないか確認

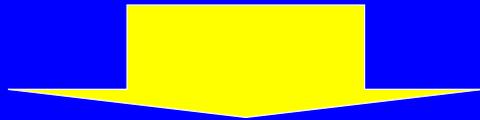


刀、器具、長靴等は専用の容器に保管

13

S R M除去に関する検証結果 1

- 検出限界以下の牛を検査対象から除外するとしても、現在の全月齢の牛を対象としたSRM（特定危険部位）除去措置を変更しなければ、それによりvCJDのリスクが増加することはない



➤全月齢からのSRM除去の継続

14

S R M除去に関する検証結果 2

- 引き続き適正なS R M除去、交差汚染防止の指導を行うとともに、その実施状況を定期的に検証するなど、適正な実施が保証される仕組みを構築すべき

- ◇ と畜場における S R M除去状況の定期的検証
- ◇ S R Mによる枝肉等の汚染防止措置の評価方法の研究開発

15

各国のと畜場における B S E 検査体制

	日 本	米 国	E U
目 的	食肉検査	サーベイランス	サーベイランス / 食肉検査
健康牛	すべて	30ヶ月齢以上 2万頭	30ヶ月齢以上
リスク牛 (歩行困難牛など)	すべて	今後1~1.5年 間に農場段階を 含め30ヶ月齢 以上の死亡牛等 のリスク牛20 ~27万頭を検 査	24ヶ月齢以上
備 考	農場段階におい て24ヶ月齢以 上の死亡牛につ いても検査		農場段階におい て24ヶ月齢以 上の死亡牛等の リスク牛につ いても検査

16

BSE全頭検査開始の背景

平成13年10月当時

牛の月齢を正確に確認することができ
なかった

国内初のBSE感染牛が発見された直
後で、検査をした肉としていない肉が
流通すること自体への強い不安があっ
た

等

17

と畜場におけるBSE検査フロー



18

と畜場における B S E 検査



19

B S E 簡易検査キット

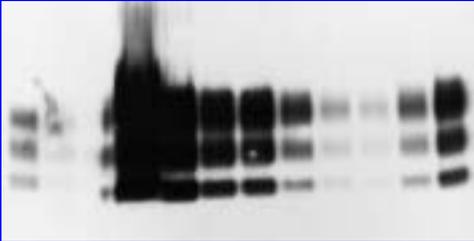
E Uにおいて評価されている B S E 簡易検査キット
プリオニクス (WB, ELISA)、プラテリア (ELISA)、
エンファー (ELISA)、C D I

日本のと畜場における検査に使用可能な B S E
簡易検査キット

プラテリア (ELISA)、エンファー (ELISA)、
フレライザ B S E (ELISA)

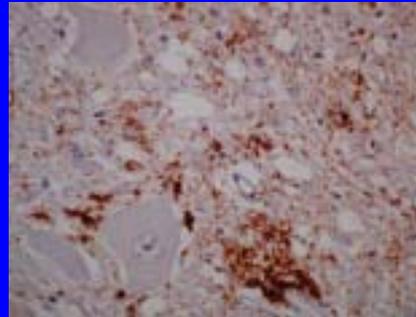
20

BSE 確認検査の陽性事例



ウエスタンブロット法

BSE 感染牛では、分子量の異なる
3本のバンドが検出



免疫組織化学検査

茶褐色部分が異常プリオンたん白質

21

と畜場におけるBSE検査結果

	検査頭数	BSE 確認頭数
平成13年度	523, 591	2
平成14年度	1, 253, 811	4
平成15年度	1, 252, 630	3
平成16年度 (9月11日まで)	561, 756	1
合計	3, 591, 788	10

平成13年9月に千葉県で確認された1例目及び死亡牛検査で確認された1例を含め、国内では12頭がBSEとして確認

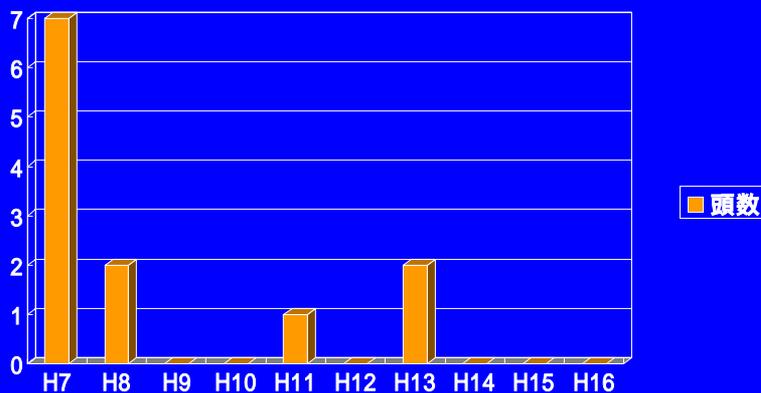
22

B S E 確認状況について

	確認年月日	出生年月日	月 齢	品 種(性 別)
1	H13. 9. 10.	H 8. 3. 26.	64	ホルスタイン種(雌)
2	H13. 11. 21.	H 8. 4. 4.	67	ホルスタイン種(雌)
3	H13. 12. 2.	H 8. 3. 26.	68	ホルスタイン種(雌)
4	H14. 5. 13.	H 8. 3. 23.	73	ホルスタイン種(雌)
5	H14. 8. 23.	H 7. 12. 5.	80	ホルスタイン種(雌)
6	H15. 1. 20.	H 8. 2. 10.	83	ホルスタイン種(雌)
7	H15. 1. 23.	H 8. 3. 28.	81	ホルスタイン種(雌)
8	H15. 10. 6.	H13. 10. 13.	23	ホルスタイン種(去勢)
9	H15. 11. 4.	H14. 1. 13.	21	ホルスタイン種(去勢)
10	H16. 2. 22.	H 8. 3. 17.	95	ホルスタイン種(雌)
11	H16. 3. 9.	H 8. 4. 8.	94	ホルスタイン種(雌)
12	H16. 9. 13.	H11. 7. 3.	62	ホルスタイン種(雌)

23

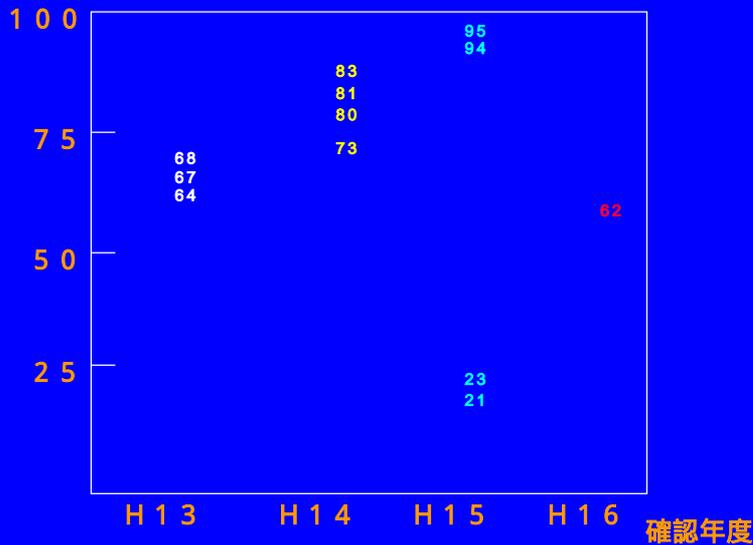
B S E 感染牛の出生年度分布



24

BSE感染牛の月齢分布

月 齢



25

BSE検査に関する検証結果（1）

- 検出限界以下の牛を検査対象から除外するとしても、現在の全月齢の牛を対象としたSRM除去措置を変更しなければ、それによりvCJDのリスクが増加することはないと考えられる。
- しかしながら、検出限界程度の異常プリオンたん白質を延髄門部に蓄積するBSE感染牛が、潜伏期間のどの時期から発見することが可能となり、それが何ヶ月齢の牛に相当するのか、現在のところ断片的な事実しか得られていない。ただし、我が国における約350万頭に及ぶ検査において発見されたBSE感染牛9頭のうち、21, 23ヶ月齢の2頭のBSE感染牛が確認された事実を勘案すると、**21ヶ月齢以上の牛については、現在の検査法によりBSEプリオンの存在が確認される可能性がある。**

26

BSE検査に関する検証結果(2)

- 次のことは、今後の我が国のBSE対策を検討する上で十分考慮に入れるべき事実である。
- 21、23ヶ月齢で発見された2頭のBSE感染牛における延髄門部に含まれる異常プリオンたん白質の量が、WB法で調べた結果では他の感染牛と比較して500分の1から1,000分の1と微量であったこと
- 我が国における約350万頭に及ぶ検査により20ヶ月齢以下のBSE感染牛を確認することができなかったこと

27

BSEに関する調査研究

厚生労働科学研究食品安全確保研究事業

「プリオン検出技術の高度化及び牛海綿状脳症の感染・発症機構に関する研究班」

主任研究者 国立感染症研究所感染病理部長 佐多徹太郎

- プリオンの高感度・迅速検査法の開発
- BSEに関する感染牛由来材料及び実験動物を用いた感染及び発症機構の検討
- と畜時の食肉汚染防止法の検討

28

BSEに関する調査研究の課題

- 検査法については、検出限界の改善や、牛の生体から採取した組織、血液等を用いた生前検査法の開発等も含め、研究が進められるべき

厚生労働科学研究事業の推進

- ◇ 高感度・迅速検査法の研究開発
- ◇ BSEの感染メカニズムの解明など

29

厚生労働省（リスク管理機関）の今後の方針

- 食品安全委員会の評価・検証結果を尊重

リスコミによる各方面の意見聴取

具体案を食品安全委員会に諮問

- S R Mの除去の徹底
- と畜場におけるBSE検査
- BSEに関する調査研究の推進

30